

大土連 万博で農空間保全を発信

大阪府土地改良事業団体連合会（北島政夫会長）は10月6日、大阪・関西万博で「未来へ紡ぐ農空間の多面的機能の発揮」をテーマに、府内53地区で農空間の多面的機能発揮の推進を図る

「大阪府農空間保全地域協議会」の事務局として活動発表した。

当日の活動発表では、共創チャレンジとして昨年9月に実施した、「さつまいも畑」からはじまるグッドサークルプロジェクト

クト」について、同時通訳のライブ配信で世界に発信。天王寺動物園からサツマイモのツルを動物の飼料としたいとの提案を受け、三箇牧地区農空間保全協議会（高槻市）が、三箇牧小学校でさつまいも掘り体験を実施した後に残るツルを提供し、連携が実現した事例を紹介した。

そのほか、ブースを出展してモニターで活動内容を上映。ブースを訪れた約250人に農空間の重要性を呼び掛け、関心を高めた。

（林佑）



当日のステージ発表の様子

「農」を志す我々が農業のあるべき姿を創造する!!

私は富田林市で大阪茄子、大阪胡瓜、海老芋を中心に生産から販売まで行うナカスジファームの代表を務めています。就農30年をまもなく迎えるにあたり、長年農業と向き合ってきた自身の今の思いを綴ります。

年齢的に若手から中堅へと立場も変わりゆく農業界での役割や意識の変化があります。

私自身の日々の業務は、代々続く生産を主としたナカスジファームの運営のほか、新規就農者の育成に向け地域農家から始めた「富田林市きらめき農業塾」の運営、また、



農業一筋30年 現場から考える 農のあり方

ナカスジファーム

代表 中筋 秀樹

農業団体活動においては、大阪府農業経営者会議理事（前会長）や、大阪府農業法人協会副会長、大阪府農協青壮年組織協議会委員長など全国組織の活動

となる団体の役職、地元にお

だり、一歩踏み出してみることを実践しています。

現在の農園の営農については、既存スタッフや塾修了生の採用にも恵まれ、私が農園を空ける日が多くなってもちゃんと回し

てくれています。両親は高齢のため引退していく中、今年の春に息子が就農しました。次の世代交代に向けた準備期間に入っていくところでしょうか。

農業の未来について 今一番大切だと思うこと

作物を作ることはもちろんですが、やはり担い手の育成が最も重要だと考えています。

担い手の役割にもいろいろあって、日々業務をこなすことが主となる外国人労働者、そのスタッフ達が効率よく動けるように段取りをする舵取り役、そんな農園を目指す農業経営者、地域農業をまとめるリーダー的役割、地域課題をとりまとめ、政策として公的機関へ要望する役割、農業の価値を情報発信して消費者理解を高める役割など多岐にわたります。

自身で頑張る自助、仲間と頑

張る共助、それでは解決できない課題解決を求める公助が合わなければ農業の未来は不安でしかありません。

次世代に不安なく引き継げる農業のあるべき姿こそが私に今こだわり続けている役割です。

それは作り手を含め消費者にとつての食料安全保障となり、心の豊かさに繋がることではないでしょうか。

農業一筋に生きてきた自身の人生の選択が正解かどうかは、まだまだやりたいことがあるので分かりませんが、これからも大好きな農業のあり方を一歩ずつ進めながら農業人生を楽しんで行きたいです。

◇筆者の紹介（なかつじ ひでき）

100年以上続く富田林の農家のもとに生まれ、大阪府立農芸高校、大阪府立農業大学校を卒業後、20歳で親元就農。34歳の時に先代から事業を継承してナカスジファーム4代目代表に就任。